



第1回の様子

学校新設などに関する市民意向調査（全4回）

市長あいさつ

コロナ下にも関わらず、市内にお住いの皆さまには、お仕事やご家庭のご都合をつけてご参加くださいましたことを、私も教育長も心から感謝しています。

この市民意向調査には、私も並々ならぬ思いを持っております。

本日から全4回で、本市の教育行政などに対し、貴重なご意見をいただけますことを期待いたしております。

どうぞよろしくお願いいたします。



池永先生(コーディネーター)のお話

これから全4回のワークを皆さんと一緒に学び、考えていきます。どうぞよろしくお願ひします。

今まで、マンション問題や大規模開発問題に、弁護士として、市民の側で関わって参りましたが、なぜこの国では、本来まちづくりの主人公であるはずの市民が、まちづくりの蚊帳の外におかれているのかということにずっと問題意識を持っておりました。今回皆さんと一緒に、まちづくりの核であり、地域コミュニティの核とも言える学校の問題を考える機会を与えていただけたことに、とても興奮しています。

グループでワークを進めていく上で、大切なお約束があります。どなたの意見も尊重される場を作っていくこと、自分の考えと違う意見が出たとしても、決して否定せず、その方の意見も尊重してください。それが一番大切なルールです。また、現在市の中で解決策として出ている2つの案も確定したものではないと聞いています。ですから、ぜひこのまちで生活する皆さんの目で、5年後10年後20年後、これから先のこのまちに住み続けていきたい、お子さんやお孫さんの世代に残していきたい、そのように未来を志向して皆さんのご意見を自由に出していただきたいと思ひます。ご意見には理由もつけてください。専門的なことが分からないことに躊躇されず、このまちの主人公である皆さんの立場で自由にお話してください。

教育部職員による配布資料の説明

福津市の人口推計

文部科学省が示す学級数による学校規模の基準

令和2年度の増加している小中学校の児童生徒数、教室数

増加している各学校の児童生徒数のピーク

都道府県ごとの児童数別学校数について

市内全小中学校の敷地面積、運動場面積、1人あたりの面積など



グループワークの様子



各グループの発表（Aグループ）

＜学校施設の過大規模化の緩和・解消に向けて＞

- 一番多く出たのが、校区の選択、校区の再編。もっと自由にできるようにしてほしい。
- この先心配なことは、今はどんどん（子どもが）増えているけど、その後だんだん減っていく。結局作った方がいいが、不要になる。それなら校区再編をするのが一番お金がかからなくて、みんなが自由に自然豊かな学校に行けるのもいいじゃないか。
- 特別認可制度を使って勝浦小（在学生78名中41名がこの制度による）に行っている人もいるということがあまり知られていない。アピールするべき。



各グループの発表（Aグループ）

- 市のサービスとしてスクールバスを出す、自転車通学を認める、など。
- 新設については、なぜ今の2案が出ているのかがよく分からないので詳しく知りたい。
- ふくとぴあの横の広い田んぼを今のうちに確保してほしい。
- 新設するなら、子どもたちが安全に楽しく学べるようにしてほしい。
- 密だという話が出ていたが、子どもたちは元々密なものなので、密なことはそんなに心配しなくていいんじゃないか。
- 結論は、安全な学校にしてほしい。

＜これからの福津市の学校教育のあり方＞

- 多様性があるのびのびした子どもたちが安心して学べる学校にしてほしい。現状子どもが多すぎて、ちゃんと学べてないんじゃないか。均一に授業を受けられてないんじゃないか。
- 小中一貫でやったらいい。
- 制度変更は慎重にしてほしい。以前、3学期制が2学期制になってすぐ3学期制に戻ったが、これは何で？

各グループの発表（Aグループ）

- 人口推計は、本当に正しいのか。現状が31クラス以上で、すでに過大規模になっているが、校舎を建て増したらいいじゃないかということで現在まで建て増していることが問題化している。それで、推計って本当に正しいのかという疑問が出た。
- ウエルサンピアを何で市が買わなかったのか。
- 竹尾緑地は、URが住宅に向かないから売却したといううわさがあるが本当か。
- 100パーセント合意できないなら、選挙で選ばれている市長が決めてくれればいい。

各グループの発表（Bグループ）

＜学校施設の過大規模化の緩和・解消に向けて＞

- Bグループで話した内容は、Aグループが話された内容とかなり重なっている。
- 校区割をもう一度見直して、生徒が少ない小規模校など希望があるところへ行けるようにする。
- 文科省が出した1クラスの人数や人口推計に対しても本当に正しいデータなのか、市民としても検証する必要があるのではないか。



各グループの発表（Bグループ）

＜これからの福津市の学校教育のあり方＞

- 福津市の特色、福津っ子ということで、カリキュラムにその特色を出してほしい。
- 教師の負担を軽減できるか。部活にかなり負担がかかっていると聞くので、外部顧問、若しくは外部教師を雇ってはどうか。
- 6-3制、5-4制。
- 多様性。
- 人の気持ちが分かる指導をしてほしい、お互いを尊重するような教育をしてほしい。

各グループの発表（Cグループ）

＜学校施設の過大規模化の緩和・解消に向けて＞

- 竹尾緑地が本当に安全ですか。
- 校区の見直しをしても、本当に学校を新設する必要がありますか。
- 新設するなら4年かかるということなので、早くしないといけない。
- スクールバスも考えてほしい。
- 先生の質や量も考えてほしい。
- コミュニティスクールとして、シニア世代や地域の力も活用して教育の在り方を考えてほしい。



各グループの発表（Cグループ）

- 最優先に子どもや市民のことを考えていただけでないか。
- 学校は建設に4年間かかるが、その間の対応も色々考えないといけない。
- このグループには、南小から福間小に校区変更した保護者の方がいるが、いきなり変わると、子どもたちも負担があるし、親同士もいろいろあるようなので、フレキシブルな校区変更にしてもらいたい。

各グループの発表（Dグループ）

＜学校施設の過大規模化の緩和・解消に向けて＞

- 小中学校の新設は、予算をきちんと見ていかなければならない。
- どの班でもでている校区再編は、資料を見ると、神興小学校が9教室となっているのに、津屋崎小学校と敷地面積は変わらないか多い。聞いてみると、9教室しか使ってなくて空き教室が一杯あるということだったので、過大規模校以外の学校の空き教室を使って振り分けを行うべきでないか。



各グループの発表（Dグループ）

- スクールバスを使うか、福間駅から東福間駅までJRを使って登校する。JRを使うことによって、バスを新たに買わなくていいとなれば、予算もあまり使わなくていいということになる。
- ICT、テレワーク、オンラインの授業を行うことによって、登校する人と登校しない人を振り分けて分散することによって、2分の1の規模で運営していけるのではないか。
- 地域と場所という現実を見ながら計画をしていくこと

＜これからの福津市の学校教育のあり方＞

- 生徒が増えて、教室が増えて、先生が増えてということで、先生の質の問題がでてくるので、先生の先生を作るなど教育の基準をしっかりと持ってほしい。
- 地域の連携、地域で見守る大人を増やして、地域で子どもを育ててほしい。
- ゆったりした教育空間を作ってほしい。
- 子どもが自由に走り回ることができない現状を改善してほしい。

各グループの発表（Eグループ）

- 遠隔教育、ICT。そもそも学校が要らないんじゃないかという意見が出た。コロナ対策で、いつ第二波、新型ウィルスが出るかわからない中、学校という箱を作るのにお金をかけるのではなく、遠隔教育を進めた方がいいのではないか。ICTは、取り残さない、不登校のお子さんにも使えるシステムになるので、私にも支援級に入れている子どもがいて、いつ不登校になるかわからないという現実を考えると、こういう支援をしていただくのはありがたい。



各グループの発表（Eグループ）

- 子どもにとっては運動できる場の確保が必要。頭に入れるには、体の形成が必要。ICTは緩和にも使えるのではないか。教育を学校で受けるグループと自宅で受けるグループを交互にすれば、単純に2倍の数を受け入れられるのではないか。
- 現在と学校ができた後の交通量や騒音がどんな風になるのかなど、近隣住民への影響も考えてほしい。
- 学校を建ててしまうと過剰投資になるのではないか。コストの比較もしたい。

池永先生(コーディネーター) のまとめ

皆さん、1時間のグループワークお疲れ様でした。率直な感想を申し上げます。皆さん素晴らしいと思いました。これほど活発な意見や新しいアイデアが泉のように噴き出してくるグループワークを初めて目の当たりにしました。ぜひ、皆さんのご意見を学校づくりの問題に反映させていきたいと私自身は強く思いました。

次回以降は現地視察をしたり、あるいは現在市の方で出ている2つの解決策について、市長と教育委員会に、皆さんから直接聞いていただいて、分からないことは質問していただいて、理解を深めていただき、そして最終日にはまたグループワークの機会を持ち、皆さんの意見がどのように変わったのか、あるいはご自身の意見が深まったのか、そういったことも出していただこうと思っています。

